

「武士の魂」である「日本刀」由来の「主な日常慣用句」

日本古武道 誠慧塾

日常慣用句	語源	現代意訳
焼を入れる	刀は火に入れて焼刃をつけて硬い斬れる鋼に鍛える	やる気の無い時、(又は人に) シャンとするように活をいれること 気合いを入れること
鍛える	高級な鉄(玉鋼)を鍛錬して、約1/3の重さの刀身を作り上げる	不必要なものを排除して、必要なものを残す「鍛え」のこと 鍛え上げる 心身を鍛錬する
焼が回る	鍛造時に焼きを入れ過ぎて斬れ味が悪くなる	昔に比べ 意欲や成果が上がらなくなったり、頭の回転が悪くなった状態
つけ焼刃	鈍刀に鋼の焼刃だけを付けたした偽もの	俄か仕込みの勉強で急場を凌ごうとすること 間に合わせに習い覚えること その場
相鋸を打つ	刀の鍛錬で師匠の打つ槌に合わせ 弟子達が拍子を合わせて槌を入れて刀を鍛造する	相手に同意を示したり 話しに調子を合わせること
頓珍漢(とんちんかん)	正確な相槌は「トンテンカン」 調子外れは「トンチンカン」と聞こえる	物事の辻褄が合わなかったり、ちぐはぐになること 間抜けな言動をする事やその様な人
地金が出る	刀の研ぎを何度も繰り返すと研ぎ減ってしまい芯金が出てしまう	表を取り繕っていたものが取れ、本性が表に出てしまうこと
たたらを踏む	玉鋼を作るには踏鞴(大型ふいご)を足で強く踏み空気を炉に送る	力余って空足を踏むこと
研ぎ澄ます	研ぎ師により日本刀の美しさを引き出す最後の工程	少しの曇りも無いように十分に研ぐこと (神経や感覚等を)鋭敏にすること
身から出た錆	鍛えの粗雑な刀は 刀身の内から錆が出ることがある	自分で悪い原因を作って、その悪い結果を受ける事 自業自得 因課応報
折り紙付き	本阿弥家が発行した折紙形式の刀の鑑定書は 正真鑑定書の如く信頼が厚かった	「間違えの無い」人・物と請け合うこと 信用のできる確かなもの
目貫き通り(目抜き)	目貫は刀の柄の一番目立つ処にある重要な金具である	繁華街の一番にぎやかな通りのたとえ
真剣勝負	互いに 本物の刀剣(真剣)で勝負を決すること	命がけで物事にあたること、すること
鏢迫合い(鏢競合い)	互いに打ち込んだ刀を鏢で受け止め合ったまま押し合うこと	力の拮抗した激戦のこと
鎬を削る	鎬が互いに強く擦れて削り落ちるように感じるほど激しく斬り合うこと	激しく争うこと 激 戦
切羽詰まる	刀の両面に添える板金(切羽)が詰まること	ニッチもサッチも動きがとれなくなるまで追い詰められる事 どうにも抜き差しならぬ様子
抜き差しならぬ	刀の手入れを怠り、刀身が鞘の中で錆ついてどうにもならない状態	窮 地 のつびきならない状況 どうにもこうにもならない状態
反りが合わぬ	刀はすべて反りが異なり 合う鞘は一つしかない	互いの仲がしっくりしないこと 相性が合わないこと
元の鞘に納まる	一旦抜いた刀は違う鞘には入らないが、元の鞘にはすんなり納まる	本来あるべき処に戻る事 仲たがいの夫婦などが元に戻る事
鞘 当 て	他人の刀の鞘に自分の鞘を当てることは喧嘩を売ることと同じ	ちよつとした意地の張り合いから起こる喧嘩 「恋の鞘当て」など艶っぽい使い方もある
一刀両断	一刀のもと 真二つ斬る	物事をスパット 鮮やかに解決すること
快刀乱麻を断つ	よく斬れる刀で、もつれた麻を切る事	紛糾した物事を 明快に解決すること 又は 鮮やかに処理すること
単刀直入	唯一人で敵陣に斬り込むこと	前置きや遠回りなことを省き、直接 要点に入ること 問題の核心を突くこと
抜き打ち	刀を抜くやいなや、素早く斬りつけること	前触れもなくいきなり事を起こすこと 出し抜けるに事を行うこと「抜き打ちテスト」等
太刀打ち	太刀で打ち合って戦うこと	まともに勝負すること 実力で張り合うこと
伝家の宝刀を抜く	その家に代々伝わっている「大事な刀」を特別な時に抜くこと	素晴らしい威力はあるが よくよくの場合以外には 秘め置いて使わないもの
抜かぬ太刀の高名	刀はめったに抜かぬもの、抜かずに相手を降参させるのが最上	口では偉そうな事を云うが、実際には力量を示した事がない人のこと
大上段に振りかぶる	刀を頭上高く振りかぶり 敵を威圧する構え	居丈高な態度
諸刃の剣(つるぎ)	刀身の両辺に刃の付いている剣	一方では、大いに役に立つが、他方に大きな害を与える危険があるもの
両刀使い	両手に刀を持って戦う剣法 又はその人 二刀遣い	二つの事(芸事・技能等)に熟達していること 酒と甘味を共に好む者
助太刀	仇討や果し合い等に助勢すること	加勢すること 又 その人
おっとり刀(押取刀)	咄嗟の事で、腰に差す間もなく 急いで手にとる刀	大急ぎで駆けつける様子
懐剣(ふとごろがたな)	刀とは別に懐中深く収め持つ小さな守刀	大事な秘密の計画等に参画する側近中の側近のこと
真打ち	御神刀は数振を鍛え、一番優れた一振りを「真打」として捧げた	落語界など その世界で一番上の人を「真打」と称える
急場凌ぎ(急刃凌ぎ)	戦場で刀の刃が欠けるも 取り敢えず斬れ味の悪い刀で戦かうこと	一時の間に合わせで、なんとかその場を切り抜けること
土壇場	斬罪の刑場で、土を盛った土壇の上で斬首した	もう逃れない最後の時、又は その場所 絶体絶命

(一部抜粋/順不同)

凌ぎ